



「性教育(命の教育)その1」

もう10年以上前になります。年長の男の子と家族の話をしていました。その時「おばあちゃんがね」と彼が言うので、どちらのおばあちゃんのと聴くと、「お母さんを産んでくれたおばあちゃん」とその子が言いました。「産んでくれた」、その温かい響きと5歳児の優しい表情に心がほっこりしたことでした。今でもその場面とその子の表情を覚えています。

小さい時からの家族を思いやる言葉や態度、「産んでくれた」を大切にする思い、それが性教育、生きるための教育だと思っていました。それは特別なものではなく、日々の生活の中にあるもので、人と共に生きていくための道しるべとなるものです。

性教育は多様な考え方があり、それぞれの方の思い入れがあります。私たちは日々の生活の中で、さまざまな教えをもとに生きています。ご自身に合った価値観を見つけて参考にされるといいですね。やってみないと分からることは沢山あります。親が子ども

の気持ちを大切に考えてやったこと、それがもし子どもに合わなければまた考えていいければいいと思います。大事なことは子どもの目を見ることです。子どもの表情を見ることです。子どもの話を聴くことです。子どもの気持ちを知ることです。

子どもは養育者からの笑顔や温かい肌の触れ合いを大きくなって覚えています。想像ではなく体感だからこそ、目で、そして肌で覚えているのです。このような温かい体感は生きていくうえで大きな支えになります。これもまた性教育の根幹だと思っています。

5月1日に「令和」へと時代が変わりました。人が心を寄せ合い、子どもたちがおだやかに過ごせる時代になることを願います。

性教育(命の教育)をシリーズで、「性教育絵本の紹介」「女の子の大學生と何てよんでる?」「子どもからの『赤ちゃんはどこから生まれるの?』」「性被害」などのお話をさせていただきます。



子育ちひろっぱ「めぐみ」代表
弘田 恵子

大阪府立母子保健総合医療センターNICUや母乳育児相談室で勤務。その後20年間高知市内のめぐみ保育園で園長を務め、平成30年4月から子育ちひろっぱで、妊娠中からの悩みサポートを行う。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)、上級睡眠健康指導士。